

1、期間

平成23年6月19日～22日

2、支援場所

石巻市雄勝地区 乳幼児健診でのこころの相談

気仙沼市内 私立幼稚園2園のこどもの心の支援（3回目）

3、支援内容



健診ルーム

（避難所である体育館の一室を使用）

石巻市雄勝地区での乳幼児健診が震災以来、初めて実施されました。

石巻市の雄勝地区は激震地で津波被害もひどく、ほとんどの住民が河北地区に避難しておられます。乳幼児健診を始めるにあたり、母親の不安や子どもの身体化症状を別の窓口で受け付ける必要があると地区の保健師が判断し、ジャパンハートに要請がありました。

東北大学精神科と公衆衛生のチームが雄勝を復興支援モデル地区に指定しているため、それらと共同することになっています。子どもの症状はジャパンハート、父母の症状は東北大精神科チームが診察をするという形で協働し、公衆衛生チームが調査をするという流れになると思います。



かなり片づけられた瓦礫



車はまだまだ積まれています

気仙沼市の私立幼稚園2園への支援は3回目になります。  
前回までに幼稚園教諭への心理教育を実施し、子どもたちの症状を把握するためのアンケートを保護者に配布していました。今回はその集計結果をお伝えし、どの子どもに注意が必要なのかを共通認識として持つことを目的としました。

被害当時、母のお迎え後に自宅で津波に会い泳いで助かった子ども、幼稚園で高台に集団避難した子ども、津波を高台から目撃した子ども、自宅が全壊した子どもなど状況は様々です。アンケートで要注意マークがついた子どもは津波に直接会い、園舎が全壊したために転園してきた子どもや、自宅が全壊した子ども、家族のうち祖父母が行方不明のままである子どもなどでした。幼稚園では症状が軽く、あまり大人を困らせない子どもの中にも、自宅や避難所に帰ると大人にまわりついたり、「赤ち

ゃん返り」がひどい子どもの様子などがわかり、意外であるという声も聞かれました。子どもたちの本当の姿が理解でき、幼稚園での今後の生活に役立つものとなったと感じました。このアンケート調査は3カ月毎に実施し、要注意マークのついた子どもの経過と、全体の症状の推移を観察し個別治療につなげていく予定です。

また来月からは保護者への心理教育、アンケート集計結果の報告をしていく予定です。そして8月には気仙沼市私立幼稚園が集まり、教諭の研修会があります。そこに臨床心理士でキッズヨガをしている先生を招いて研修会を実施します。（お話ヨガといって、昔話に出てくる登場人物や動物になりきって身体を動かし、感情を解放する方法など）



気仙沼の幼稚園の前で（BMVからの提供車両）

気仙沼では今後、市立幼稚園にも介入をしていく予定です。就学後の子どもたちには各県から派遣されたスクールカウンセラーが各校に配置され、いつでも相談を受けられるようになっていきます。しかし就学前の子どもたちには手が回らない状況があり、そこにジャパンハートの一員として介入していく必要性を感じています。言葉の発達がまだまだ未分化な未就学時だからこそ、強烈な体験は感覚として脳に焼き付きます。それがいつ、症状として顔をだしてもおかしくない状況です。そしてその周りにいる大人たちも被災者であり、彼らの支援も今後必要になってくると思います。日本EMDR学会（トラウマ処理を専門とした臨床心理士や精神科医師からなる学会）から協力を得て、それらへの対応をしていく予定です。